

平成 28 年度家畜ふん尿処理利用研究会

「家畜ふん堆肥の肥料利用促進に向けた課題と技術開発および畜産環境に関する研究動向」

開催要領

1. 開催趣旨

家畜ふん堆肥の利用促進は、資源循環型・環境保全型の農畜産業を推進する観点から重要な位置づけとなっている。堆肥の流通や利用の面では、平成 24 年に混合堆肥複合肥料の公定規格が新設されたことを受け、堆肥を原料とした肥料の製造法とその利用技術の開発が進められている。これまでに 40 銘柄以上の混合堆肥複合肥料が登録されるなど、急速に肥料開発が進められ、資源循環型農畜産業の推進や肥料コストの低減に貢献している。今後、堆肥を原料とした混合堆肥複合肥料等のさらなる普及拡大により、輸入化学肥料への依存度を低減させ、肥料資源の安定確保や肥料価格の安定化につなげる必要がある。そのためには、公定規格に適合し、かつ成型性の良好な原料堆肥の確保が重要となる。そこで、土壌肥料分野と畜産分野が連携して混合堆肥複合肥料の開発とその利用技術について検討するとともに、普及拡大に向けた課題を整理する。また、強化される排水基準への技術対応など、最近の畜産環境に関する研究の動向について情報・意見の交換を行う。

2. 開催日時 平成 28 年 11 月 10 日（木）13:15～17:00、11 日（金）9:00～12:00

3. 開催場所 農研機構畜産研究部門 大会議室（茨城県つくば市池の台 2）

4. 主催 農研機構畜産研究部門

共催 農研機構中央農業研究センター

5. 内容

第 1 日目：11 月 10 日（木）

挨拶 13:15 - 13:25

基調講演「畜産環境の現状と行政の動向」

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 田島 隆自 13:25 - 14:00

【家畜ふん堆肥の肥料利用促進に向けた課題と技術開発】

座長 農研機構中央農業研究センター 土壌肥料研究領域長 加藤 直人

(1) 堆肥を原料とした肥料開発の流れ

農研機構中央農業研究センター 土壌肥料研究領域長 加藤 直人 14:00 - 14:35

(2) 豚ふん堆肥を原料とした複合肥料の開発

岐阜県農業技術センター 土壌化学部長 棚橋 寿彦 14:35 - 15:10

休憩 15:10 - 15:20

(3) 牛ふん堆肥を主原料とした全量基肥用の混合堆肥複合肥料の開発

岡山県農林水産総合センター農業研究所 専門研究員 森次 真一 15:20 - 15:55

(4) 混合堆肥複合肥料の開発経過と製造における課題

朝日工業株式会社 開発部肥料開発課 見城 貴志 15:55 - 16:30

(5) 総合討論

16:30 - 17:00

第2日目：11月11日（金）

【畜産環境に関する研究動向】

座長 農研機構畜産研究部門 水環境ユニット長 長田 隆

(1) 畜産排水規制の動向と技術対応の展望

畜産環境整備機構 研究参与 田中 康男 9:00 - 9:40

(2) 温室効果ガス発生を抑制する炭素繊維担体を用いた排水処理技術

岡山県農林水産総合センター畜産研究所 専門研究員 白石 誠 9:40 - 10:10

休憩 10:10 - 10:20

(3) 畜産廃水処理施設に存在する高濃度アナモックス汚泥

農研機構畜産研究部門 上級研究員 和木 美代子 10:20 - 11:00

(4) 密閉縦型堆肥化装置における堆肥発酵熱利活用の可能性

農研機構畜産研究部門 研究員 中久保 亮 11:00 - 11:30

(5) 総合討論

11:30 - 12:00

6. 参集範囲：農林水産省生産局、地方農政局、技術会議事務局、独立行政法人、国立研究開発法人、都道府県試験研究機関、普及指導機関、大学、民間団体、民間企業等

7. 参加申込：下記ホームページから当研究会のお知らせを経由し、必要事項を入力してお申込ください。

10月20日（木）を申し込み期限とさせていただきます。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

8. 事務局：農研機構畜産研究部門企画管理部企画連携室 運営チーム

〒305-0901 茨城県つくば市池の台2 Tel. 029-838-8290、 Fax. 029-838-8606